

# GRIPS 国内同窓会報

発行日：2021年3月22日 発行者：政策研究大学院大学国内同窓会 発行責任者：名取はにわ  
事務局連絡先：〒106-8677 東京都港区六本木7-22-1 TEL 03-6439-6048 E-mail alumni@grips.ac.jp

## GRIPS 恩師インタビュー第4回 大山達雄先生～GSPS/GRIPS：共に学び、共に遊んだ40年



### 大山達雄先生 プロフィール

1969年東京大学工学部計数工学科卒業、1971年同大学院工学系研究科応物部門修士課程修了、1977年米国コーネル大学大学院工学部オペレーションズ・リサーチ部門博士課程修了。Ph.D.

電力中央研究所経済研究所(1971-1980)、埼玉大学教養学部(1980-1986)、同大学院政策科学研究科(1986-1997)を経て、政策研究大学院大学政策研究科教授。政策研究科長(2000-2014)、副学長(2003-2014)、政策研究大学院大学理事(2009-2016)。2017年より政策研究大学院大学客員教授・名誉教授。

#### 主な著書等

『整数計画法と組合せ最適化』(日科技連出版)、『最適化モデル分析』(日科技連出版)、『パワーアップ離散数学』(共立出版)、『公共政策評価の理論と実際』(現代図書)、『東京大学第二工学部の光芒—現代高等教育への示唆』(東大出版会)

#### CONTENTS

GRIPS恩師インタビュー第4回	1
国内同窓会開催報告	6
修了生紹介	7
母校の動き	8
大学からのご案内	8

### 山本 (インタビュアー)

大山先生というとすぐにご出身の宮崎のことがでできますが、宮崎には特に強い思い出があるのでしょうか。(以下、敬称略)

### 大山

私が育ったのは、えびの高原の麓の宮崎県小林市です。親父が農水省の役人で、引越しのたびに自然がきれいな牧場に住みましたが、とくに小林は自然豊かな非常に広い牧場でした。今でもきれいなところへ行くと元気が出ます。小学3年の時に岩手から宮崎へ転校したんですが、全然言葉が通じないです。こっちは東北弁で、相手は薩摩弁だから聞き取りにくかったんだと思います。通信簿に「話し方が速過ぎる」って書いてあったくらいです。

転校で学ぶことは人の付き合い方ですね。いじめもあるし、変なやつもいる、仲のいい友達もできる、そういう友人との付き合い方が自然と身についたという感じがしますね。

小林高校一年まで、豊かな大自然の中で一番多感な成長期を個性豊かな多くの友人と過ごしたので、宮崎には強い思い出があり、自分の人間形成で大きな位置を占めているといっても過言ではないですね。高校2年で岡崎に引越し、岡崎高校に転校しました。岡崎は5年間だけで、町の中で鶏舎だけの小さな牧場でそんなに思い出はないわけですが、今でも付き合い合っている友人から「おい大山、内地の生活はどうだ。」と言われたことが印象に残っています。内地という言葉が知らなかったのですから。

社会に出ても管理職になっても基本は人間関係だから、子供の頃あちこちに転校して苦労したことがいい経験になってますね。当時は大変だったけれども。

### 山本

その後、東大工学部の計数工学に進学されましたが、何が選択の理由になったのでしょうか？

### 大山

工学部へ行きたいと思っていて、受験前に学科を全部調べたんですよ、機械工学、電気工学、土木工学、建築工学等全部ね。そうしたら計数工学が情報工学的、データ分析的な学問であり、その時これが俺のやるべきことだと思いました。まさにコンピューターが世の中に出始めたときで、その頃から情報理論、計算機科学、オペレーションズリサーチなど、コンピューターでいろいろな計算をしたりデータを蓄積、処理、加工したりとかがおもしろいなど

思っていたんです。そんな将来像も描いてましたね。だから大学での学生生活も、遊び、勉強(あまりしなかったけど)いずれも楽しかったですね。

### 山本

どのような学生生活を送られましたか？

### 大山

今からもう50年前、半世紀以上前です。大学に入ったときはテニスをやっていたけど、すぐに学生運動が盛んになり、クラブ活動も全然やらなくなった。合コンぐらいは最初はありましたけどね。

大学2年のときに親父が現職最後の年に病気で亡くなって、そこから大分人生観が変わりました。おふくろ一人になりましたから、収入ゼロで家族も苦労したと思います。大学、大学院の間、育英会奨学金をもらいましたが、研究機関、大学に就職すると学部時代の奨学金が返済免除となり、その分は助かりました。



インタビューの様子

大学時代で印象に残るのは、私の指導教官で、コンピューターが世に出始めたときに活躍された森口繁一先生の教え方でした。森口先生は教えるのが非常にうまいんですよ。自分が大学の先生になって改めてそのことを感じました。一方では、教え方が全然下手というか、しゃべればしゃべるほど学生が分からなくなっちゃうという先生もいますが(笑)。なぜ教えるのがうまいかということ、森口先生は学生を「あ、分かりました」と分かった気にさせるんです。実はこのことは考えようによっては危ないんですよ。もっと深いことがあるのに、「あっ、そんなものですか」と誤解しちゃうわけ。森口先生の一つのスタイルなんですけど、もう物すごい秀才で分かっている人なら「あっ、そんなものじゃない、もっともっと深い領域があるんだ。」というのが分かるけど、普通の東大の学生では、「ああそうですか、わかりました、面白いですね。」ともうそこで終わっちゃうんですね。

そこが後で自分が教える立場になってから分かりました。

森口先生の指導のもと、学部卒論も数値計算だったし、大学院の研究も数値計算をやって、偏微分方程式をコンピューター上で数値的に解く研究をずっとやっていました。修士論文は早く仕上がったので、中身はともかくね、英語で書くことにしましたね。初めてでした。

森口先生は工学部の学生には博士課程進学を勧めませんでした。僕自身、大学に残る気持ちは全くありませんでした。修士で社会に出て企業に入って頑張りなさいというタイプの先生でした。工学部は全般にそうですが、森口先生は特にその思いが強い方でした。だから大学だけでなく、企業にもたくさん弟がいますよ。

## 山本

修士を取得され、電力中央研究所（電力中研）に就職されましたね。

## 大山

実は電力中研もひょんなことから決まったんですよ。森口先生の研究室の同期3人でIBMと三菱総研と電力中研の三社を訪問したので、それらから選ぶことになり、どこがいいか誰も分からないから、じゃんけんで決めようということになりました。本当の話なんですよ。そうしたら僕、一番負けちゃってね。一番勝ったのが当時飛ぶ鳥を落とす勢いのIBM、2番目に勝ったのが三菱総研へ行ったので、最後に残った僕は電力中研へ行くことになったわけです。でもそのおかげで、アメリカの大学院に行ってPh.D.まで取得することになったのです。他ではあり得なかったですよ。

電力中研へ行ってからはコンピューターを使って電力の最適設備運用と最適投資の数理モデルを作ったり、限界費用の問題を解いたり、OR理論の応用などを担当しました。

当時は給料も結構いいし、独身寮にいて仕送りをせざるに自由になるお金もあって、大手町にあった電力中研に近い神田近辺ではほぼ毎日、友人達と飲んでいましたね。今になって思えば親に仕送りするべきだったと後悔しています。変な話、あまり勉強しなくても給料もらえて、やっていけました。そうしたら、実はおとしに97歳で亡くなられたのですが、恩人というべき当時の上司から「このままじゃお前は駄目になる。アメリカは日本とはちょっと違う世界だから、1~2年向こうの大学院で研究生生活を体験してみる。」と言われたのです。実はその上司はアメリカに行ったこともないんです。電力中研に戻った時、その上司から「薬が効き過ぎちゃった」と言われてしまいました（笑）。

早速留学の準備を始め、といってもまさに何の知識も準備もないまま、先輩に言われてコーネル大学のほかスタンフォード、エール、パークレーと結構いい大学にも出願しました。英語も全然準備していなかったのに、TOEFLの点数が留学条件に2~3点足りず、普通だったら全部だめになるところでしたが、コーネルだけが「1か月でもいいからアメリカに早く来て、英語のインテンシブコースに行ってそれからコーネルへ来い。」と言ってくれたんですよ。

当時のOR学科のランキングは、スタンフォードが1番で、コーネルは2番でした。でも、コーネルへ行って正解でした。ほかのところだったら駄目だったかもしれないですね。コーネル大学という、お気に入りの最高の環境の中でORを本当の意味で学ぶことができたと思っています。まさに「I love Cornell.」ですね。

## 山本

写真を見ると、本当に森の中に大学があって。

## 大山

そうです。丘があって川があり、湖があり、その向こうにまた丘

があり、ワイン用のブドウ畑が連なって、景色が抜群ですよ。同じニューヨーク州でも、南東に300km離れているマンハッタンとは全然違います。だから研究室にもコーネルの写真をいっぱい飾っています。キャンパスもきれいな、町の自然もきれいなところへ行くと元気が出ますね。小林の思い出が残っているというか、僕は緑がないとだめみたいです。

電力中研から許可を得ていた2年が経過しようとするころ、指導教官から「おまえ、途中でPh.D.をほっぽり出すのか。」と言われ、「できればもう少し居たいのですが、研究所から帰ってこいと言われているんです。研究を続けるための推薦状を書いてもらえますか。」とお願いしました。

日本の感覚で、推薦状の原稿を自分で書いて先生に直してもらうのが礼儀だと思って、自分で下手な英語で書いた推薦状をすごく有名な指導教授に見せました。そうしたら先生が目を丸くしちゃって、「これを出してくれって言うのか。こういうリコメンデーション（推薦状）というのはコンフィデンシャル、内密なものだ。どうしてもこの内容で出してくれと言うならそうするけれど、本来これは俺が書くものなんだから、自分に任せろ。」というわけです。もう赤面しちゃって、自分が書いたものを取り下げたこともいい思い出です。



GRIPS時代の講義中の大山先生

後になって電力中研に戻ってから聞いたら、「この男は今2年が終わったところだけでも、資格試験（A-Exam.）にも合格して、あと1年半ぐらいいれば докторが取れる見込みがある。」と言ってくれたようでした。おかげで電力中研もあと1年の延長を認めると言ってくれました。3年経過したときも先生がまた書いてくれて、トータル3年8か月ぐらいで何とか博士を取得することができました。博士取得には結構時間がかかるんですけども、何とか3年8か月で取れたのは先生の研究指導とサポートとともに、電力中研の寛容さのおかげです。電力中研は電力王と言われた松永安左エ門が造った研究所で、その威光がまだ残っていた時代だったんですよ。企業の利益より、若い優秀な人間を育てるといった主義のおかげで、コーネル大学に留学でき、しかも博士まで取得できたわけですから。

## 山本

埼玉大学へはどんな経過でいらしたんですか？

## 大山

帰国して電力中研に戻ってきた途端に、大学からオファーがあり、電力中研に相談したところ、「ちょっと待て、君は3年アメリカにいたんだから3年は電力中研で仕事をしたら、そこから先は行ってもいい。」と言われ、一旦は断らざるを得ませんでした。大学からは事情が許す限り待つと言われ、その後もずっと大学が研究

所にオファーしてきてくれたのか、2年経過した段階で「もう大学に行ってもいいよ」と言ってくれました。

そのころ先程の大学と埼玉大学の2校からオファーがあったのですが、自分のルーツが宇都宮で、親父が死んでいたことや将来的に通勤も可能かなと思って、何となく隣県の埼玉に親近感があったんですね。まさにフィーリングですよ。移った当初、大学院独立研究科として政策科学研究科(GSPS)があったわけですが、我々が所属したのは教養学部の中の社会システムという専攻で、周りを見ると、江戸文学、哲学、美術史、アメリカ文化、国文学などいろいろな専攻があり。面白い先生もいっぱいいましたよ。政策科学でも教えていましたが、GSPSには1980年辺りに移りました。

あの頃の政策科学研究科は、薬師寺さん、小椋さん、吉野さん、榊原さんとか若い連中はほとんどアメリカでドクターを取得した人で。みんなアメリカの影響を受けているわけですよ。アメリカは、大学院で最初からちゃんと基礎からきっちり教えてくれるから、学部で違う学問を専攻していたとしてもちゃんと修士で履修できるようにカリキュラムができていますよ。政策科学研究科もそういったスタイルを取り入れていたんです。

### 山本

大山先生の基礎数学の授業も初心者を対象とした内容でしたが、私にはついていくのがやっとだったことが懐かしいですね。特に先生のち密な板書も忘れられません。

### 大山

板書はね、一番コーネルで驚いたことでした。教室へ来るときチョーク1本とコーヒーカップだけ持ってくる先生がいて、90分ぐらい黒板に書き続けるんだ。僕はその影響を受けて、埼玉の最初のころはずっといっぱい板書をしていました。教員として大学で教えることに限らず、何事も10年くらい経験しないとわからないね。10年経ったころから教えることについても少しずつ分かってきたから、最初のころに教えた学生に会うのは非常に恥ずかしくていやで、本当は反省しているよ。

### 山本

大山先生のゼミが人気なんですよ、なかなか入れなくてと後輩から聞くことができました。

### 大山

ゼミはすべて印象に残っていますよ。講義は下手だったかもしれないけれども、ゼミは一生懸命やったという思いがあります。なぜなら、ゼミは学生が自分の論文を書く場であり、学生が自分で書くことに対してはできるだけサジェスションして手伝おうという姿勢でやってきました。苦勞して自分で書くということは後々まで残るじゃないですか。ゼミ生が大学院にいたときにこういう論文を書いたというのが一つの証しとなるから、学生の論文を著書で紹介することも学会で発表することも一生懸命やったつもりですよ。

ゼミ生は、一番多いときは4~5人いたかなあ。少ないときは1人、2人でした。博士課程ができてから現在に至るまで学生の指導は続いていますね。人気があるというのは、修士だからゼミでこういうことをやりたいとか、学問的なアプローチを求めるといふより、むしろ大山ゼミでは、ソフトボール、運動、そしてもちろんお酒など遊びもしながら、いろいろ勉強もしたいという感じだからなのかなあ。ほんとに学生とよく付き合って、一緒に遊んだよ。酒飲みの連中がみんな大山ゼミへ行くなんてさんざん言われてね。北浦和の居酒屋なんてほとんど行っちゃっていたね。教職員チームと学生チームとの対抗戦ソフトボールの大山カップはもう30回以上になるでしょう。僕が研究科長のときに優勝カップを買ったら、誰かが「大山杯」と命名したんです。それにリボンだけ毎年毎年つけてい

くんだけど、リボンがいっぱいになっちゃった。今も海洋大学のグラウンドを借りてやるけれど、今回はコロナでできず、落ち着いたらまたやりまますよ。

遊びも含めて、ゼミはすごく一生懸命やったから、自分ではほとんど悔いはないですよ。学生は悔いがあるかもしれないけどね。



GRIPS学位授与式にて 2012年9月14日撮影

### 山本

副学長と研究科長といった管理職を経験されていますね。

### 大山

管理職も結構長くやりました。そのときもちろん講義もやったし学生の面倒も見たけど、仕事としてはちょっとペースダウンしましたね。ある行政学の先生に「大山先生は、社会科学系の大学院で管理職をずっとやられています、理系の工学部出身なのにあまり違和感がないですね。ストレスはないですか。」とインタビューされたことがあります。そのころは学内でも何かトラブルがあり、管理職を含む教職員、学生とかみんなが相談に来て、苦情や問題の処理もしていましたね。その先生への答えは「私は工学部出身だから、人間関係も組織の体制も何でもシステムとして見る癖がついている。それぞれ個体がどうつながり、どういう経緯でどういふ変化をしているかとシステム的に見ることが、いろいろな問題を解決するとき役に立っています。」と答えました、そうしたらその先生が「だからやっていけるんだ。」とびっくりしていました。いろいろと言ってくる人に対しては、まず話を聞いて、その人が言っていることだけで判断すると絶対に解決できないので、こんなことも考えた方がいい、こういうこともあるんじゃないの、これでどうかなとか言うようにしているんだ。こことここに問題があったら、その問題にどういう背景があるか、どういう原因があるか、あるいはどういふ解決方法があるのか、いろいろなことを考えるシステムの思考がまさにORなんですよ。システムの思考をすれば何か解決案が出てくることが多いんです。そういうプロセスを踏んでおけば、最後に悔いもしこりも残らなくなると信じてますよ。

### 山本

今はどんな感じで仕事をされているんですか？

### 大山

GRIPSでの現在の役職は名誉教授と客員教授だけど、プロジェクトに参画したり研究関連の頼まれ仕事をしたり、学生の指導もしていますね。管理職時代より楽というか、自分の好きなことが仕事としてできている。Zoom授業も週に何回かやっているけど、あれはあまり好きじゃないね、相手の顔と表情がよく見えないから。

学会活動もまだやらされているよ。普通だったら学会長をやったらバイバイなんだけど、今でも特に国際活動関連担当のお世話を頼まれている。後任を作ろうとしているんだけどねえ。結局は、学会も人と人とのつながりで成立している社会だから、当面、仕方ないかと思ってる。

このインタビュー記事のタイトルで書いてくれたけど、まさに「よく学び、よく遊び」というのが自分には一番当たっているような気がするね。要するに、よく学べば、よく遊べるわけ。そして、よく遊べば、またよく学べるんだよね。だから、これは両方がなくてはならない関係にあると思っているよ。趣味のソフトボールもそうだし。テニスもそう。最近は、そばを打つのも、テレビを見るのも、落語を聞くのも、映画をみるのも。全部遊びになるわけ。地元でほぼ毎週末にソフトボールをやっているよ。

ただテレビ番組にしても、面白くてすぐに入り込めるのと、これはもう全く駄目というのがあって、面白いほうへ行くとすごく楽しくてリフレッシュもできるけれど、駄目な方はすぐに見るのをやめるし、その先の細かなデータも一切調べないね。例えば、今の「エール」や「麒麟」を含めて朝ドラ、大河はほとんど好きだから幾らでも入れるわけ。だけど、たまに入れないのが出てくるのよ。最近で言えば朝ドラでは「あまちゃん」、大河では「新選組」や「いだてん」が入れなかったね。どうも三谷幸喜や宮藤官九郎の脚本というのがついていけずに、合わないみたいだ。これは彼らの多くのファンにはごめんなさいだね。大河は「篤姫」から見始めたわけだけど、主演の宮崎あおいが今でも最も好きな女優で、彼女のデータは本当によく調べているよ。「篤姫」の第49回など抜群だね。ドラマの中で篤姫が徳川家に興入られて自分は今や徳川の間人だと宣言する時に言った「女の道は一本道」というセリフがおもしろいね。じゃ、男の道は何かと思って考えたときに、女の道は一本道と言うけど、男の道は、自分のことを考えても寄り道だし回り道だし、曲がり道でもいいような気がしている。間違いに気づいて後悔するよりもそれをどうやって将来に生かせばいいかを考えるのが自分の生き方ではないかと感じているよ。つまり、遊ぶというのは、自分にとって楽しいことで、それをすることによりまた新たなエネルギーが生まれるね。自分のやりたいことは仕事上でもあるんだけど、それが苦痛かというところではなくて、遊びと同様に楽しいことだから、趣味に生きるようになるか、あるいは仕事を継続していくかは自分でも区別がつかないし、分からない、敢えて決める必要もないと思っている。今はそういう意味では非常に楽しいし、次々とエネルギーは湧いてくる気がするね。

学ぶ上でも、遊ぶ上でも大事なものはやはり友人だね。学生と先生の間柄であろうが友達であろうが、長く付き合うことは大事ね。今でも付き合いが続いているけど、大学の友達で50年、小学校なら60年、70年の付き合いになるわけだから、やっぱり大事だね。これは相手が外国人の場合でも同じで、長く付き合うって大事だと思ってるよ。

各地の連絡係の卒業生に今度行くよと連絡すると、女房から「あなた、また連絡したら先方の方に悪いじゃないの。」と言われるんだけど、「悪けりゃ悪いって向こうが言うんだからそれでいい。」と言うんだ。人間同士の付き合いが長く続くというのは、それだけでも面白いし、楽しいし、われわれの人生を豊かにすると思っている。大学が夏休みの間、毎年のようにコーネル大学に行けたのも向こうの大学の教授との人間関係のたまものです。毎年コーネルなので、気が付いたら、女房や子供たちもコーネル大好き人間になっていたよ。どこの国の人間でも人間的なつながりを長く保っていると、いろいろと楽しいことがあるね。アメリカ人とはこう付き合い、中国人とはこう付き合いとかいう人がいるけど、僕はあまり信じないよ。やっぱり自分のスタイル、いわば各自のスタイルでやるべきで。相手が変わっても同じだと思っているからね。それでやっている友達関係でも長続きするしね。



大山杯記念写真 2018年11月25日撮影

## 山本

執筆活動はいかがですか？

## 大山

数理、ORの関係の著書はいろいろあるし、これからも書こうと思うものがあるのだけど、初めての経験で印象に残っている著書は、「東京大学第二工学部の光芒－現代高等教育への示唆」、2014年、東大出版会の本だね。太平洋戦争に向けて理工研究者を増やすことを目的に昭和17年に設立され、9年間だけ存在した東京大学第二工学部について書いたんだ。自分が書いた本の中では異色だけれど、一番印象深く、面白かった。第二工学部といっても夜学じゃなくて、第一工学部の本郷に対して、第二工学部は千葉にはあったんだ。第一と第二は成績順で最初に1番は第一、2番は第二、3番は第一、4番は第二という具合に単純に振り分けたんだ。ところが、本郷はいわゆる東京大学というイメージで、権威と歴史と伝統で非常にがっちりしていた一方、第二工学部は今の千葉大学キャンパスに古い研究所の建物が残っているんだけど、当時はサツマイモ畑の中で、海岸にも近い砂ぼこりがするど田舎だったんだ。本の作成過程で第二工学部の卒業生を全部調べ、関係者にインタビューをしたんだ。第二の学生は、第一の学生とはあまり仲がよくなく、というより第一と第二はほとんど交流がなかった。だから第二の学生はどちらかというと反骨精神にあふれ、第一への対抗心から「二工魂」で何くそと頑張ったのではないかと思うよ。本郷へ行く機会もなく、何で俺ら第二だけがこんなみじめな生活しなきゃならないんだと思いつつ、千葉のほこりの中でサツマイモを食いながら研究したけれど、卒業してから皆頑張ることができた。みんな二工の生活を後悔するどころか、誇りをもって、本郷じゃなく二工で勉強して卒業したことが非常に良かったとおっしゃる。実際、例えば日立、ソニー、富士通、他のメジャーな会社の社長、副社長も数多くいて、公平に見ると第二工学部のほうが実業界に入ってモノになっているんだ。

今の高等教育にも参考になることが多いと思うので、是非機会があれば、皆さんにも読んでもらいたいと思ってる。

最後に、自分の人生のベースになっている「ORの3つの役割」をお話ししておきたい。役割の一番目は、「データを分析する」、二番目は、「数理的なモデルを作る」、三番目は「理論を作る」なんだ。

「データを分析する」というのはデータを集めて加工して処理することで、簡単なようだけど実はこれが難しいわけ。だから、データを大事にしろと学生にも常に言っています。人と話をするときにデータをちゃんと分析しておけば、相手と戦えるんだからデータ分析が大事だと口酸っぱく言っているわけ。例えば、俺は宮崎あおいが好きで、あるいは落語が好きでとか何でもいろいろなことが好きな場合、そうすると自分の好きなものに対するデータを全部集めて

ちゃんと自分なりにマスター、消化をしておけば人と戦えるじゃない。そういうデータ分析というのは決してばかにはできないということだね。

「数理的なモデルを作る」というのは、現実の問題を単純化し、抽象化し、一般化して考えることによって解決を図ろうとする試みです。目的関数と制約条件を明確にして、その前提となる問題領域としてどの範囲でとらえるか、また、それをどのように数理的に反映するのかといった社会への問題意識と数理的なセンスが求められる。我々のほとんどの行動は、実は無意識に近い状態で、頭の中でモデルを作って、そしてシミュレーションをして結果を出しているんだと思うけどね。

「理論を作る」は、一つの現実的な社会的な問題や政治的な問題を厳密に科学的、合理的に解こうとすると、それにふさわしい理論がないために未解決という問題がいっぱいあるわけ。例えば、A地点からB地点への最短距離を見つけるとすると、例えば平面上だったら直線距離で、道路網があったらネットワークで距離計算する。じゃ、途中で障害物が何かあったらどうなるかとかいうのを理論としてつくろうとしたら、物すごく難しくなるわけ。だから、そういう理論を作るという必要に迫られる場合があるんだ。

自分なりにここまで40年もORを楽しめたのは、さまざまな問題においても、3つの役割のどこかでいつも自分が動いているからだと思ってる。それが人生の一つの喜びとか楽しみになっているといっても過言ではないね。自分なりの最適解はこれですというのを主張できるじゃない。ORはもちろんパーフェクトではないけれど、世の中に今まで解けなかったような問題を解く理論ができる場合もある。そういうのを作ろうとしているわけだから。

皆さんも自分の毎日の生活にぜひ「ORの3つの役割」を当てはめて見つめなおしてください。きっとより良い答えが見つかると思います。

#### 【後記】

政策科学研究科やGRIPS関係者で大山先生を知らない人はいません。大山先生を軸に歴史が刻まれているといっても過言ではないでしょう。在学生、修了生を問わず、すべての学生と話す機会を作ったこられた先生の人生哲学を改めて今回のインタビューで認識しました。ゼミ生として、卒業してから35年が経過したこの時にインタビューするという機会ができたことは感激でした。コロナが落ち着きましたら是非兵庫、そして各地の修了生に会いに来てください。

(山本 亮三 国内同窓会副会長・GSPS1985年修了)



GSPS (埼玉大学大学院政策科学研究科) 旧校舎

## オンライン修了生名簿をご活用ください！

オンライン名簿は、国籍、所属機関、修了年度、プログラムという枠を超え、国内外に広がる政策形成に携わるネットワーク構築に役立てていただける貴重な財産です。ぜひご活用ください。

**何ができる？**：GRIPS/GSPS修了生情報（出身国、勤務先、プログラム、メールアドレス等）が検索可能。

**どう活用する？**：「担当業務で行き詰った時、他県の担当者を探し、情報交換をする」、「自分の県・市と国際友好都市になった国の修了生を探す」、「取引先に修了生がいるか探す」など。

**アクセス方法は？**：<https://gportal.grips.ac.jp/fw/dfw/ASTSV004/>にアクセス、GRIPSのID（学籍番号）とパスワードでログイン、表示されたGateway画面から、「メニュー」→「教員・学生検索」→「修了生検索」で検索画面表示。

**ID(学籍番号)を忘れてしまったら？**：

[alumni@grips.ac.jp](mailto:alumni@grips.ac.jp)までご連絡ください。

**パスワードを忘れてしまったら？**：ログイン画面に表示される「Forgot your password?」をクリックして、再設定。



**情報はどこまで公開される？**：修了生、学生、教職員など、ログインID及びパスワードをお持ちの方にのみ限定公開。

## GRIPS基金ご協力をお願い

GRIPSには、ミッドキャリアの行政官を中心に、日本を含む世界46の国と地域から学生が集まっており、世界で活躍できる指導者・政策プロフェッショナルの養成に努めています。

皆様から募った基金を奨学金として、未来のリーダーを支援することにより、日本及び世界の持続的発展に繋がること、また、研究資金として、本学の政策研究活動を支えることにより、この分野での世界における本学ひいては日本のプレゼンスの向上に繋がることが期待されます。

基金へのご寄付は、銀行振込・クレジットカード決済にて受け付けております。ぜひ、皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

<http://www.grips.ac.jp/about/gripsfund/>



## 国内同窓会報に掲載する原稿を募集しています

国内同窓会の各支部や各地域の会合のご案内、開催のご報告、会員の近況などを掲載したいと思っています。

修了生紹介「政策の現場から」に登場くださる方も自薦他薦問わず募集中です。寄稿、行事のお知らせや写真など、[alumni@grips.ac.jp](mailto:alumni@grips.ac.jp)までお送りください。

## 2020年度国内同窓会はオンラインで開催！



## 2020年度国内同窓会開催報告

2020年度国内同窓会は、新型コロナウイルスの厳しい状況下でしたが、何とか2020年11月23日に第4回同窓会を開催することができました。初めて「Zoomウェビナー」を用いたオンラインでの開催となりました。

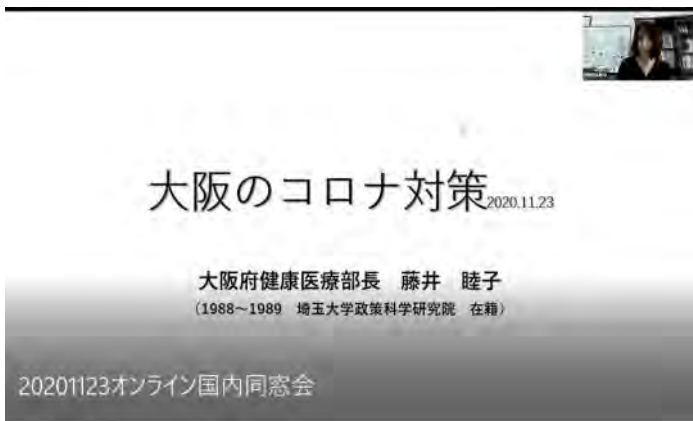
当日は、みなさんも開催時間が近づくにつれ緊張（ドキドキ）が高まってきたことと思います。今回の同窓会はオンラインということで、要の進行役は稲葉副会長に務めていただき、先ず名取はにわ会長の挨拶で始まりました。

続いて、役員のご自己紹介、高木幹事から同窓会活動報告が行われました。

現在の同窓会活動は、(1) 同窓会報の発行、(2) 同窓会の開催、(3) GRIPSの社会科見学会の支援をしており、2020年度には、大学事務局の支援によってオンラインによる同窓会を開催、同窓会報第4号の発行、各県・団体支部の活動支援が行われたが、社会科見学会（川崎キングスカイフロント）は新型コロナウイルス禍のため中止したことなどが報告されました。

その後、GRIPSの田中明彦学長のご挨拶とコロナ禍の大学や海外の状況、オンライン授業等に関するお話をいただきました。

次に、修了生の報告がございました。コロナ対応で大変ご多忙の中、藤井睦子様（1988年度入学 大阪府健康医療部長）から「大阪府におけるコロナ対策」と題して、危機管理を含めた現場の日々の動きについてお話しいただきました。



藤井さん（写真右上端）による報告

また、野呂好幸様（2004年度入学 鹿島建設（株）環境本部環境ソリューショングループ次長）から、災害対策と低炭素化という課題の双方を同時にWin-Winとさせる多目的雨水貯留施設の構築についてお話しいただきました。



野呂さん（写真右上端）による報告

ここからフリートーク的に、横道清孝副学長と大山達雄客員教授によります最近の大学の状況や海外同窓会の開催や先生の近況などをお話ししていただきました。

国内外各地の様子や両先生のご活躍をうかがうことができ難うございました。



司会進行役の稲葉副会長（上段左）、大山先生（上段右）、横道先生（下段）

さらに、19886年入学の反町副会長からの学年同窓会報告をはじめ東京消防庁支部や埼玉県庁支部、2015年入学地域政策プログラム等の同窓会開催報告をいただきました。

最後に、集合写真の代わりにギャラリービューをスクリーンショットで撮影（許諾者のみ）しました。

なお、今回は初めてのオンライン同窓会でしたが、約70名の修了生が参加し、コロナ禍ではありましたが有意義な一時でした。ご支援いただきました大学事務局のみなさま誠に有難うございました。機会がありましたらオンライン同窓会またいかがですか？

（関口 吉男 国内同窓会幹事・GSPS1996年修了）

## 修了生紹介

## 政策の現場からNo.4

## 2021年に開催されるTOKYO2020大会に向けて

坂 明さん(GSPS国内プログラム1986年修了)

(公財)東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会  
チーフ・インフォメーション・セキュリティ・オフィサー(CISO)

今回の修了生紹介は、新型コロナウイルス禍の流動的な情勢の中で東京オリンピック開催の仕事にとりくむ修了生の坂 明さんからご寄稿いただきました。2021年3月6日時点の原稿です。

2020年は、これまでの価値感の変換を迫られた年であったように思う。

私自身は、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会の仕事をしているので、1年の延期を踏まえ様々なチャレンジに取り組む、という日々だ。何よりも、感染防止対策を徹底し、安全に大会を開催することを期しているが、延期に伴い、経費の削減も行う必要がある。そのためには、これまで当然とされてきたことも見直し、新鮮な目で状況を把握して対応していくことになる。



坂 明さん

組織委内で私はサイバーセキュリティを統括する立場だが、昨今の社会のデジタル化を踏まえ、戦線が拡大するとともに、攻撃手法が高度化し、さらにデータ保全やシステム管理・事案発生時の責任を問う制度も導入されつつあることで、常に新たな課題が立ち上ってくる状況だ。謂わば常在戦場であり、組織委は新型コロナという敵と、具体的なサイバー攻撃者という敵との戦いを強いられている。状況は厳しいが最善を尽くしていきたい。

オリンピック大会が近づくと、国連では「オリンピック休戦決議」が行われる。これは、1994年のリレハンメル冬季大会以降採択されてきた国連総会決議で、正式名称は「スポーツとオリンピックの理想を通じた平和でより良い世界の構築」。慣例上、各大会前年秋に五輪大会の開催国が原提案国となり行われるが、Tokyo2020については、2019年12月9日、日本政府提出の決議案を国連総会本会議で審議し、全会一致で採択された。延期に伴い、2020年7月6日の国連総会で、「オリンピック休戦」(Olympic Truce 又はkekecheria)の新たな対象期間を2021年7月16日(オリンピック開会の7日前)～9月12日(パラリンピック閉会の7日後)に変更する決定が採択された。

この動きは1992年の国際オリンピック委員会 (IOC) による「オリンピック休戦」提言に始まっており、背景には1991年からのユーゴ内戦がある。旧ユーゴスラヴィアは、クロアチア、スヴェロニア、セルビア、ボスニア・ヘルツェゴビナ、マケドニア、モンテネグロの6つの共和国から構成される連邦であったが、1991年6月、スヴェロニア、クロアチアが分離独立を宣言、連邦維持を求めるセルビア人勢力がクロアチアで攻撃して内戦が勃発した。国連は、1992年5月15日の国連安保理決議752で関係地域での停戦を要求、同年5月30日国連安保理決議757で新ユーゴスラヴィア(セルビアとモンテネグロ)への非軍事的制裁措置を決議した。国連安保理決議757の内容は、輸出禁止措置、送金禁止措置、航空機の離陸及び乗り入れ禁止措置に加えて、外交、スポーツ、文化交流の断絶が含まれていた。これはすなわち、1992年7月から開催のバルセロナオリンピックに、新ユーゴが参加できなくなることを意味していた。当時のサマランチIOC会長は選手の個人としての参加を、英国、G7、国際社会に働きかけ、バルセロナオリンピック組織委員会マラガイ会長は国連、旧ユーゴ各国に「旧ユーゴ地域の戦闘が終息するよう最大限の努力をすること」「7月11日までに旧ユーゴ地域の戦闘が停

止すること、さもなければ大会期間中にオリンピック休戦を実施すること」を要請した。また、サマランチIOC会長自身が新ユーゴと交渉し、休戦を求めることにも言及した。最終的に、国連安保理から7月21日にスペイン政府に対し、新ユーゴ選手の個人としての参加を認める旨の通知があり、IOCもこれを受け入れた。

このような経緯を見ると、政治のスポーツへの介入と言ったこと以前に、紛争時にスポーツの大会を開催すると言うことは実質的に休戦が不可欠であり、1992年の休戦は、オリンピックに紛争当事国である新ユーゴ選手の参加のため、IOCを含むスポーツ関係者が尽力して実現したと言える。そして、実際に紛争当事国を含め国際的に選手を受け入れ、大会を安全に開催する責務は、開催国政府が負うことになる。スポーツが平和をもたらすということがスローガンではなく現実のものとなり、それを開催国が担保したというのがバルセロナ大会であった。

サマランチ会長は1992年「IOCが安保理決議757を調査したとき、IOC理事会は2つの解決策を考えた。一つは選手たちを助けるために何もしない、ということ。もう一つは最大限のことをするというのだ。そして、後者の解決策をとることにした。」と語った。そして、これ以降の大会について、国連でオリンピック休戦が決議されることとなった。

2020年3月、IOCとTokyoは、大会中止ではなく、近代オリンピック史上初となる大会延期を決定した。これは、人類の新型コロナとの戦いの中での決断であり関係者にとっても初めての挑戦である。

現在、日本政府と組織委は、このような大会を新型コロナ下で実現するための、具体的な施策を実施しつつある。状況は厳しいが、このような困難の中でも努力を重ねているアスリートの皆さんの思いとオリンピックの理念を胸に、着実な歩みを進めていきたいと考えている。

私自身は、大会開催中は技術やセキュリティ関係のセンターでシステムのディスプレイを見ながら過ごすことになるだろうが、アスリートの皆さんが自らと人類の限界に挑戦し、日本の皆さん、そして世界の皆さんがその瞬間を共有することを楽しみにしている。

(坂 明・GSPS1986年修了)

## 坂 明さん プロフィール

1981年警察庁入庁。目黒警察署長、通商産業省(現経済産業省)通商政策局中南米室長、兵庫県警察本部長、国土交通省大臣官房審議官(自動車局担当)、警察庁生活安全局セキュリティシステム対策室長、情報技術犯罪対策課長としてサイバー犯罪対策に従事。2002年ハーバード大学国際問題研究所(WCFIA)客員研究員としてサイバーテロの研究に従事。慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科教授(2008年～2009年)。

2014年11月日本サイバー犯罪対策センター理事、2017年4月東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会チーフ・インフォメーション・セキュリティ・オフィサー(CISO)

母校の動き

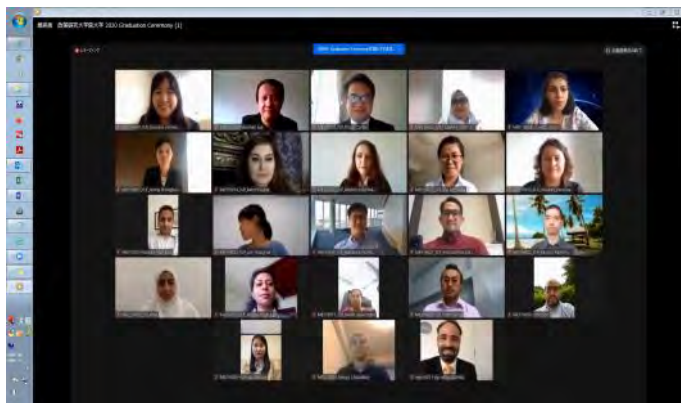
2020年9月秋季学位記授与式挙行



2020年9月15日、GRIPS創設以来20回目の秋季学位記授与式を挙行、世界34ヶ国からの修了生134名（修士128名、博士6名）に学位が授与されました。

新型コロナウイルス感染症の感染予防対策のため、初めてのウェビナー形式での開催となりましたが、その結果、式典開催を待たずに母国に帰国した留学生もオンラインで出席することが可能となりました。

ニュージーランド元首相で国際連合開発計画（UNDP）元総裁のHelen Clark様による記念講演を賜り、修了生代表としてDisaster Management Policy ProgramのRafael Silva Araujoさん（ブラジル鉱物資源調査会社）が修了後の抱負を述べました。



オンライン学位記授与式2020年9月



GRIPS六本木校舎

大学からのご案内

GRIPSフォーラムを開催しています

GRIPSフォーラムは、政策に関わる諸問題への理解を深める場として、本学の政策研究に関する広範なネットワークを活用し、各界のリーダーや有識者を招いて開催されています。

毎年十数回、日英同時通訳にて行われ、正規課程の学生には授業の一環として単位化されているほか、一般の方にも広く公開しています。ぜひ、ご参加ください。

[http://www.grips.ac.jp/ip/events-cat/grips\\_forum/](http://www.grips.ac.jp/ip/events-cat/grips_forum/)

【開催概要】

日時: 春学期(4~7月)及び秋学期(10~1月)の月曜日 16:40~18:10

場所: オンライン開催 (Zoom Webinar)



修了生の皆様へ

~支部設立をお手伝いします！

国内同窓会は、各地方自治体、中央省庁等様々な単位で支部が発足しています。

今後、国内同窓会への新たな参画を希望される方、また、修了生による懇親会等の予定があり、それをきっかけに新たに同窓会支部を発足させたいとお考えの方は、ぜひ、以下の担当までご連絡ください。

支部発足のお手伝いをいたします。懇親会等にも、可能な限り教職員が出向いて、参加させていただきます。

■ 連絡先: [alumni@grips.ac.jp](mailto:alumni@grips.ac.jp)

■ ■ 編集後記 ■ ■ ■

2017年11月の国内同窓会の設立に立ち会い同窓会報の準備号からこの第4号まで関わらせていただきました。特に第3号と第4号はPublisherで編集作業をしたので少々感慨を覚えます。

第4号は、新型コロナウイルス禍の中での初の試みのオンライン同窓会、大山達雄先生のインタビュー、Tokyo Olympicの開催に向けてがんばっておられる坂 明さんの修了生紹介などの記事を掲載いたしました。ありがとうございました。

同窓会も発足4年目、会報の発行は、軌道に乗ったかと思えますが、同窓会としての事業計画、予算はまだ未整備です。会員の皆様におかれましてはAlma Mater（我が母校）にどうかご理解、ご協力、ご支援たまりますよう心からお願い申し上げます。

「年々歳々花あい似たり、歳々年々人同じからず～劉 希夷」

（高木 昭美 国内同窓会幹事・GSPS1988年修了）